



## ロケセットとなった井上家

浦城 いくよ

(井上靖長女・井上靖記念館特別相談役)



父の書いた『わが母の記』が松竹から映画になりま  
す。脚本・監督は  
日航ジャンボの墜  
落事故を扱った  
『クライマーズ・ハ  
イ』や「突入せよ！あさま山荘事件」などで知  
られる原田真人さんです。

今年の秋にはベニスやモントリオールの映画  
祭にも出品され、来春一般公開が予定されてい  
ます。旭川市では来年、父の誕生日の五月六日  
から書齋と応接間の公開が始まり、井上家をロ  
ケセットとして使った映画「わが母の記」がゲ  
ッドタイムイングで上映されます。

父は大変強運の持ち主でした。年老いた親の  
介護は今や大変な社会問題になっていますが、  
これを先取りして執筆した自伝的な小説の映画  
化です。

知識がないということは呑気なものです。監  
督が最初に挨拶に来られた時、家をご覧になっ  
て、二階へ上がる階段の所で「ここを撮らせて  
ください。」と言われた時、「家は応接間と書齋  
の移築後は、壊してしまうので映画の中に階段  
でも残ればうれしい。」と、それ以上のことは考  
えもしなかった。

その後プロデューサーや助監督さんが時々来  
られ、色々質問されながら徐々に話が煮詰まっ  
ていくうちに「何か変ね。階段、ただでなく家全

体がセットになるらしい。」ということに気づき  
出した。「本をどかしてもいいですか。」とか「応  
接間の窓のサッシュの所は木枠にします。」など  
話が進んでいった。

映画関係の方はそのつもりでどんどん準備が  
進んでいるようだが、私どもにしてみれば大変  
な、思いもかけないことになってしまった。こ  
の家には現在私たちは寝泊りこそしていない  
が、父母の生存時のままに物も置いてあるし、  
花も活けたりしている。母の生きている頃から  
のお手伝いさんにもそのまま泊まってもらって  
いる。空き家ではない。来客もあるし、父母亡  
きあとの片づけもあまり進んでいない。何か事  
あるごとに一族が集まって食事をし、楽しい時  
間を過ごしていた。

『わが母の記』の時代は昭和三十三年ごろか  
ら、四十八年ごろまでの十五年余りにわたって  
おり、時代に合わせて家の中は作り変えられて  
いった。二月頃から撮影が始まると伺っていた  
ので、二月から家を使用されると思っていたの  
が大間違いで、準備の期間というものが一ヶ月  
も前から始まっていた。まず冷暖房機が外され  
た。家具や美術品も移動され、居間の壁のクロ  
スも張り替えられた。床にはワックスもかけら  
れた。その当時の雰囲気を持つ家具、ソファ、  
飾りなどがどこからか運び込まれ、すっかり家  
の中は変わってしまった。夏の場面を撮るらし  
く、窓にはすだれがかけられ、庭の芝生には緑

の染料が振り掛けられ、大小の植木も持ち込ま  
れ、石垣の塀まで作られた。

二月二日は家を使つての初めてのりハーサル  
の日。役者さん(役所広司さん、樹木希林さん、  
宮崎あおいさんその他)も殆どの方が集まられ  
るといふので見物に行つてみたら、なんと私の  
娘のお食い初めのシーンが演じられていた。監  
督がメガホンを持つて役者のそばで演技をつけ  
ながら撮る昔のままのイメージしか持っていな  
かった私には、目の前に見えるのは全く違つて  
いた。監督は他の部屋でモニターの画面を見な  
がら大声で「スタート」「カット」というだけ。  
時々出かけて行つては指導をされている。部屋  
にはカメラマンや照明の人たちと役者さんがい  
るだけ。家の中は暖房機もなく、ガラス戸は八  
十人位の働く方たちの庭への出入りのために開  
けられていてとにかく寒い。持ち込まれた石油  
ストーブに私はダウンジャケットを着たままあ  
たつてしていると、母親役で出演されている樹木希  
林さんがやって来られ、

「この家は大変幸せな家ですね。六月ごろか  
ら壊されると伺いましたが、丁度それに間に合  
つてよかったです。本物の家を使うのとセットを作  
つて撮影するのは映画の出来上がりが全く違  
うのですよ。ホラ、柱や壁にキズがついている  
でしょう。床にも何十年も住まれた生活の跡が  
あります。年月の重みがあるのです。これが映  
画の画像となつたときには作られたセットとは  
全く違うのですよ。」と話された。

なるほどと思ひ、長い年月、見慣れたキズや  
汚れを見渡した。言われてみればその通りなの  
だが、この家を映画の撮影場所として改めて眺  
めてみると、家はかなり広い。部屋数も大小沢  
山ある。庭だつて撮影道具は何でもおける広さ  
がある。しつかりとした塀に囲まれているし、  
大きな木もある。用心もよい。百人位の人の出

入りは十分でき、働ける。住んではないが空き家ではない。周囲の道幅も広いし、隣近所はくつついてはいない。何よりもストーリーはこの家に住んでいた家族たちの物語だ。監督やプロデューサーたちから見ると、もってこいの場所だったに違いない。

書齋に沢山並んでいた父の著書は物語の主人公、伊上洪作著に変えられていた。井上家の家紋まで伊上家に変更するについて相談を受けた。検印については大変な興味を示され、質問攻めだった。あのころは何万、いや何十万という数の検印押しが家族あげての仕事だったが、今は知る人も少なくなかった。

台所や玄関前では何十人分のカレーライイスや中華丼などが夕食用に作られていた。簡単なコンビ二弁当も積まれている。コーヒーはいつでも飲めるようになっていた。とにかくびっくりしたのは映画の撮影現場というのは朝から夜半まで沢山の人々がいる。音を立ててはいけない緊張の中で忙しく働いている人々や、何か仕事があるに違いないがぞろぞろと人がいる。まさに父の言う「一座建立」お神輿担ぎである。父は大勢の人が集まる賑やかなことが大好きな人だった。天上からこの状態を見て「大変なことになっているね。」とニコニコして眺めているだろう。朝日新聞の連載小説『氷壁』が大ベストセラーとなり、父が五十歳の時に建てた家、外国からの訪問者をはじめ、実に多くのお客さまを迎えた家である。

この家での撮影最終日、集合写真を撮るという知らせに、私も暗くなってから出かけて行った。出演者南果歩さんのご主人渡

辺謙さんが家を見たいと、大勢の方たちにお土産を持って来宅された。撮影のためピリピリとした雰囲気の中でも一瞬華やいだ。応接間では母親が危篤になり、やがて亡くなった知らせが来る場面を演じているようなので、私は庭に出てそつとガラス越しに覗いてみた。庭の寒い中で、芝生の上に置かれた椅子に座り、役所さんはほつと

一服しておられた。私と主人は夜十一時頃には帰宅したが、撮影は夜中まで続いたようだ。こんな賑やかで華やかな最期を遂げる家は余りないでしょう。樹木さんが「この家は幸せな運の良い家ですよ。」と言われたが、本当にそう思うし、父の生誕地旭川で未永く利用されることを願っています。

## 「赤い実の洋燈読書会」の活動

井上靖記念館  
中西 睿

今年、井上靖記念館は大きな節目を迎えようとしています。井上邸の応接間等の移転作業が本格的に始まるからです。先生の創作活動のために使われた貴重な資料、日々机に向かつてペンを走らせていた書齋。先生の文学への思いが詰め込まれた空間や品々が、旭川の井上靖記念館で新たな息遣いを始めようとしています。私たちこの館に関わる者も、出来るだけ多くの方々に先生の作品を読んでもらい、井上文学の豊かさや魅力に触れてもらえるよう、気持ちを引き締めて準備をしています。

井上邸の応接間・書齋の再現、それは素晴らしいことですがもう一つ大事なのは、部屋や資料の移転後、それから何をやるのかということだと思えます。すなわち部屋や貴重な資料を保存するだけでなくそれを有効に活用し、井上文学をしっかりと紹介していく事が求められていくと思います。入れ物や品物が充実していくと共に、ここで行われる活動の質が問われてくる

その一つは、読書会の内容の質が充実していること、次に出席率の高いこと、さらに館の他の行事へも積極的に参加することです。そして読書会以外にも館への奉仕活動、親睦旅行の実施など、活動が幅広いことです。今年度は、赤い実の洋燈読書会はこの記念館と共催という形で読書会を開催することになりました。

この会の願いはこの館が（単に記念館としての施設にとどまるのではなく、実質的な文学館として、文学館らしい活動が出来るようにと応援することです。私たち記念館の者も、この会の活動が来館者に明るい希望の洋燈の灯を点す事が出来ることを祈っています。

当館エントランスに飾られた読書会の皆さんが作ったアイスクャンドル



口ケ中に咲いた井上邸の紅梅

# 平成22年度 事業報告 企画展

## 第一回 企画展

### 美の遍歴

井上靖 美術エッセイ

四月十日(土)～六月二十日(日)



#### 《趣旨》

小説家井上靖は、美術評論家・美術エッセイストとして多くの美術批評やエッセイを書き続けてきました。井上が長年に亘って交流してきた芸術家たちや多くの美術作品との出会いについて、確かな美術史の知識や感性豊かな鑑賞眼をおして描いた珠玉の美術エッセイを図版と共に紹介しました。

#### 《展示の主な内容》

- ① 美しいものとの出会い
- ② ヨーロッパの絵画Ⅰ
- ③ ヨーロッパの絵画Ⅱ
- ④ 日本の絵画Ⅰ
- ⑤ 日本の絵画Ⅱ
- ⑥ 美しい仏像たち

#### 《観覧者数》

一般 七四五人  
高校生 四人  
中学生以下 一四四人  
免除 三八八人  
合計 一、二八一人



## 第二回 企画展

### 旭川の文学を育んだ 佐藤喜一展

六月二十六日(土)～八月一日(日)  
共催/旭川文学資料友の会



#### 《趣旨》

代表作『十勝泥流』をはじめ多くの創作を手がけ、小熊秀雄研究に先鞭をつけた、旭川ゆかりの文学者である佐藤喜一の作品と生涯を写真や書籍など約三〇〇点の展示とともに迎えました。

#### 《展示の主な内容》

- ① 誕生～旧制旭川中学校生
- ② 早稲田大学生時代
- ③ 旭川での教員生活、終戦
- ④ 「冬濤」の時代Ⅰ
- ⑤ 「冬濤」の時代Ⅱ
- ⑥ 「LINTA」の時代
- ⑦ ノート、原稿類
- ⑧ 絵画等

#### 《観覧者数》

一般 六三四人  
高校生 〇人  
中学生以下 六〇人  
免除 四八八人  
合計 一、一八〇人



## 第三回 企画展

### 井上靖と家族

ふみ夫人を中心に

八月七日(土)～十月十一日(日)



#### 《趣旨》

井上靖の膨大な作品は、家族、特にふみ夫人の支えなしには生み出されませんでした。当館所蔵のふみ夫人の遺品や原稿等を紹介しつつ、井上靖と家族についての展示を行いました。

#### 《展示の主な内容》

- ① 父・母・叔父  
― 自伝小説との関わり
- ② ふみ夫人  
― 足立家・文太郎
- ③ ふみ夫人  
― 靖との結婚 他
- ④ ふみ夫人  
― 靖と二人で
- ⑤ ふみ夫人  
― 畑 野菜嫌いの靖のために
- ⑥ 井上家  
― 「養之如春」の家族

#### 《観覧者数》

一般 九九二人  
高校生 六人  
中学生以下 五六人  
免除 四三八人  
合計 一、四九二人



## 第四回 企画展

### 『天平の薨』展

十月十六日(土)～二月二十三日(日)



#### 《趣旨》

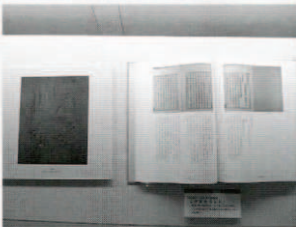
井上靖の『天平の薨』は、天平五年に出發した遣唐使船に乗った栄叡・普照ら若き留学僧たちの葛藤と、彼らが中国の高僧鑑真を日本に連れ帰ったという歴史的事実をもとにして小説化したものです。本作は、天平時代の遣唐使僧や鑑真和尚を描いた井上文学不朽の名作です。  
本展は、「平城京遷都一三〇〇年」の年を記念して開催しました。

#### 《展示の主な内容》

- ① 書誌紹介
- ② 遣唐使とは
- ③ それぞれの留学僧たち
- ④ 鑑真の渡来
- ⑤ 小説『天平の薨』の時代背景
- ⑥ 鑑真と唐招提寺

#### 《観覧者数》

一般 五五二人  
高校生 〇人  
中学生以下 一九六人  
免除 四〇九人  
合計 一、一五七人



# 『氷壁』展

一月二十九日(土)～三月二十七日(日)



## 《趣旨》

井上靖は昭和三十一年十一月から三十二年八月まで、小説『氷壁』を朝日新聞に連載し、昭和三十四年には『氷壁』等により日本芸術院賞を受賞しました。本作は、「岩稜会」のメンバーが穂高東壁アタックの最中にナイロンザイルが切れ遭難した「ナイロンザイル事件」から発想を得ており、連載中から評判になりました。本展では、当時使われていたものと同じ形状のザイル等を展示し、井上靖が作家としての名を確たるものとした名作『氷壁』の世界を紹介しました。

## 《展示の主な内容》

- ①書誌紹介
- ②小説の舞台と背景
- ③ナイロンザイル事件
- ④登山と人生
- ⑤魚津遭難の真相
- ⑥派生作品紹介

## 《観覧者数》

- 一般 三三八人  
高校生 〇人  
中学生以下 二七人  
免除 二八二人  
合計 六三七人



## 企画展関連事業

### 井上靖講座

開催中の企画展の見どころの紹介や解説と文学入門を行いました。

第一回 井上靖 美の遍歴  
とき／五月八日(土)

第二回 井上靖と家族  
とき／八月二十一日(土)

第三回 『天平の臺』  
とき／十月三十日(土)

第四回 『氷壁』  
とき／二月五日(土)

講師／(第一～四回)  
当館職員

(第四回)  
中村 洋一氏

(赤い実のランブふあんクラブ会長)

### 旭川の文学を育んだ佐藤喜一展

#### 関連事業

記念講演会「佐藤喜一の人と作品」

とき／六月二十七日(土)

講師／片山晴夫氏(北海道教育大学教授)

講演と朗読「佐藤喜一の作品を読む」

とき／八月一日(日)

講師／石川郁夫氏

朗読／森内 伝氏

沓澤章俊氏

## 自主事業

### 井上靖の作品を読む集い(全八回)

井上靖の短編小説を取り上げ、朗読と解説を行いました。

第一回 『補陀落渡海記』  
とき／五月二十九日(土)

第二回 『利休の死』  
とき／六月十九日(土)

第三回 『鬼の話』  
とき／七月十七日(土)

第四回 『本多忠勝の女』  
とき／九月十八日(土)

第五回 『姨捨』  
とき／十一月二十七日(土)

第六回 『猫がはこんできた手紙』(童話)  
とき／十二月十八日(土)

第七回 『平蜘蛛の釜』  
とき／一月十五日(土)

第八回 『小磐梯』  
とき／三月十九日(土)

朗読／(第一～五回、第七～八回)  
塩尻曜子氏

(井上靖ナナカマドの会会員)  
(第六回)  
高橋典枝氏

(おはなし「ばたぼん」)  
講師／当館職員



▲井上靖の作品を読む集い(第三回)



▲記念講演会「佐藤喜一の人と作品」



▲第三回井上靖講座



▲第二回井上靖講座

井上靖の作品を読む集い(第六回)▼



講演と朗読「佐藤喜一の作品を読む」▼



第四回井上靖講座▼



## 文学散歩

とき/六月十二日(土)

見学地/上富良野・富良野方面  
講師/平野武弘氏

青空の下、上富良野・富良野方面にある文学碑や歌碑をバスで巡りました。講師から、文学碑の設立の経緯、作者の人となり、文学碑に書かれてある作品などの解説が行われ、参加者は自然の中でゆったりと文学の世界にひたっていました。

## 親子で楽しむ本の世界

とき/六月二十六日(土)

十一月二十日(土)

講師/高橋典枝氏(おはなし「ばたぼん」)  
子供から大人まで楽しめる絵本の読み聞かせやパネルシアター、ペープシートなどを行いました。

パネルシアターでは、井上靖作の「銀のはしこ」を題材とし、子供達だけではなく、一緒に参加した大人にも、井上靖という作家を身近に感じられる機会となりました。

## 夏休みおはなし会

第一回

とき/七月二十八日(水)

講師/旭川おはなしの会の皆さん

第二回

とき/八月三日(火)

講師/福田洋子氏(こども富貴堂店長)

こども富貴堂の皆さん  
井上靖作の詩を朗読後、子供達に親しまれている絵本や日本の昔話などの語りや読み聞かせを行いました。語り手の個性豊かなお話や会話形式

の読み聞かせで楽しくにぎやかなおはなし会となりました。

## ロビーコンサート

とき/八月二十八日(土)

ギター/笹野正行氏  
声楽/佐々木智美氏  
朗読/沓澤章俊氏

昭和の名曲をアレンジしたギター演奏、井上靖の詩の朗読、日本や世界の名曲の歌と演奏を行いました。暖かい日差しが差し込むロビーで、心地よい音楽と朗読に耳を傾けました。

## 文学講座

第一回

『天平の薨』―若き留学僧の群像

とき/九月四日(土)

講師/石本裕之氏

(旭川工業高等専門学校教授)

第二回

『物語』を考える

―井上靖『狼銃』の闇について

とき/十二月四日(土)

講師/片山晴夫氏

(北海道教育大学教授)

第三回

『額田女王』の万葉歌

とき/一月二十九日(土)

講師/伊藤一男氏

(北海道教育大学教授)

井上靖の作品について、より理解を深めるため、講師をお招きし、多方面からの考察や解説を行っていただきました。  
この講座をとおして、作家・井上靖や井上文学の新たな魅力を知ることができました。

## 井上靖映像の世界

とき/十月二十二日(金)

上映作品/『天平の薨』

開催中の企画展にあわせて、井上靖原作の映画『天平の薨』のビデオ上映会を開催しました。

## 「空とぶペンギン」の贈りもの

とき/二月十九日(土)

講師/読み語りの会

「空とぶペンギン」の声の贈りもの  
井上靖が書いた童話や、絵本の読み語りを行いました。登場人物ごとに読み手を替えるなどして、お話の世界を楽しみました。

## 大人のためのおはなし会

とき/二月二十三日(水)

講師/上森伸子氏(旭川おはなしの会代表)

旭川おはなしの会の皆さん  
大人も楽しめる日本の昔話や、絵本等のおはなしの語りを行いました。  
語りの途中に参加者と共に言葉遊びをし、終始楽しい雰囲気のお会となりました。

## 共催事業

### 赤い実の洋燈読書会

共催/赤い実のランプふぁんクラブ

とき/毎週土曜日 開催回数 四十回

テキスト/

①『星と祭』②『天平の薨』③『氷壁』



▲空飛ぶペンギン



▲第二回文学講座



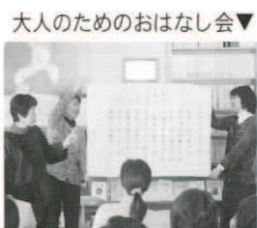
▲第一回文学講座



▲親子で楽しむ本の世界



▲文学散歩



▼大人のためのおはなし会



▼第三回文学講座



▼ロビーコンサート



▼ロビーコンサート



▼夏休みおはなし会

## 平成22年度のあゆみ

- 4月10日～6月20日  
企画展 美の遍歴 ～井上靖 美術エッセイ～
- 5月8日  
第1回井上靖講座「井上靖 美の遍歴」
- 5月25日  
第1回旭川市井上靖記念館運営協議会
- 5月29日  
第1回井上靖の作品を読む集い『補陀落渡海記』
- 6月1日～9月30日 無休開館
- 6月12日 文学散歩
- 6月19日  
第2回井上靖の作品を読む集い『利休の死』
- 6月26日～8月1日  
企画展 ～旭川の文学を育んだ～ 佐藤喜一展
- 6月26日 親子で楽しむ本の世界1
- 6月27日  
講演会「佐藤喜一の人と作品」
- 7月6日 出張講座（末広公民館）
- 7月17日  
第3回井上靖の作品を読む集い『鬼の話』
- 7月28日 夏休みおはなし会1
- 8月1日  
朗読と講演「佐藤喜一の作品を読む」
- 8月3日 夏休みおはなし会2
- 8月7日～10月11日  
企画展 井上靖と家族 ～ふみ夫人を中心に～
- 8月21日  
第2回井上靖講座「井上靖と家族」
- 8月28日 ロビーコンサート
- 9月4日  
文学講座『天平の薨』— 若き留学僧の群像
- 9月18日  
第4回井上靖の作品を読む集い『本多忠勝の女』
- 10月16日～1月23日  
企画展 『天平の薨』展
- 10月20日 出張講座（中央公民館）
- 10月22日 井上靖映像の世界
- 10月30日  
第3回井上靖講座『天平の薨』
- 11月20日 親子で楽しむ本の世界2
- 11月27日  
第5回井上靖の作品を読む集い『娼捨』
- 12月4日  
文学講座「物語」を考える  
—井上靖『猟銃』の闇について
- 12月18日  
第6回井上靖の作品を読む集い  
『猫がはこんできた手紙』
- 1月15日  
第7回井上靖の作品を読む集い『平蜘蛛の釜』
- 1月29日～3月27日  
企画展 『氷壁』展
- 1月29日  
文学講座『額田女王』の万葉歌
- 2月2日  
第2回旭川市井上靖記念館運営協議会
- 2月5日  
第4回井上靖講座『氷壁』
- 2月19日  
「空とぶペンギン」～声の贈りもの
- 2月23日 大人のためのおはなし会
- 3月19日  
第8回井上靖の作品を読む集い『小磐梯』

## 平成二十三年度の御案内

### 企画展

- 「井上靖 戦国絵巻」展  
四月十六日（土）～七月二十四日（日）
- 「井上靖 最晩年」展  
七月三十日（土）～十月二十三日（日）
- 「井上靖 西域小説」展  
十月二十九日（土）～二月五日（日）
- 「井上靖 人と文学」展  
二月十一日（土）～五月

### 講座・講演会

- 井上靖講座（全四回）五月・八月・十一月・二月  
企画展の解説と文学入門
- 文学講座（三回）九月～一月

### 自主事業

- ひつじのばたぼん  
おはなしのじかん  
六月十八日・十一月十九日
- 文学散歩  
七月二日
- 夏休みおはなし会  
七月二十六日・八月三日
- ロビーコンサート  
八月下旬
- 大人のためのおはなし会  
二月中旬
- 読書会
- 井上靖 短編小説を読む（全六回）  
赤い実の洋燈読書会（毎週土曜日）  
「赤い実のランプふあんクラブ」との共催読書会

企画展の会期及び自主事業等の開催日は予定となっております。詳細については、当館までお問い合わせください。

なお、当館ホームページでも御案内しています。

<http://city.asahikawa.hokkaido.jp/bunkashinko/inoueyasusi/>

## 編集後記

昨年度の館報でご報告したとおり、東京都世田谷区にある井上靖邸の書斎と応接間が当館に移転されることが決まり、平成24年5月のオープンに向け、今年度は建物の工事など目に見える形で準備を進めてまいります。また、昨年度新規事業として8回にわたり実施した「井上靖の作品を読む集い」を始め、前述のとおり様々な事業を実施しました。毎回多数のご参加をいただき、大変好評でした。今後もより一層来館者の期待に沿えるよう努めてまいります。

### 職員異動のお知らせ

#### △転出

職員 嵐 俊樹  
嘱託職員 三村登喜子  
臨時職員 池田佳奈子  
臨時職員 上北 奈緒

#### ▽転入

職員 沼田 聡  
嘱託職員 轟 麻衣子  
臨時職員 笠置 知子

### 年度別入館者数

年度	人数
平成5年	12,703
平成6年	20,385
平成7年	16,599
平成8年	14,893
平成9年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,486
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496
平成16年	10,077
平成17年	7,772
平成18年	6,331
平成19年	7,267
平成20年	6,740
平成21年	6,003
平成22年	6,085
総入館者	213,081

